

問 虐待もいじめもない弥富を目指せ

答 最重要課題と位置づける



堀岡 敏喜 議員 公明党

○子どもの権利を守るための取り組みと、その道筋を明らかにするため以下を問う。

な子育て支援施設と情報共有を図り、権利や安全の確保に努めている。

り、助け合いながら自分らしく生きることを深く統計的に学んでいる。

問 いじめや虐待防止対策は、市民と共に取り組むことが重要である。子ども支援、子育て支援、保育・教育、母子保健、児童相談所、警察、要保護児童対策地域協議会などを含めた対策の全体構想について市の考えと現状は。

問 子どもの権利について普及・啓発と教育をどう行っていくのか。

問 小中学生版の「共育」ジョーン」の作成について、市の見解は。

問 子どもの権利を守れ

答 地域の支援を得て最善を尽くす

答 健康福祉部長 いじめ防止対策としては、弥富市いじめ問題対策連絡協議会において、子どもの権利を念頭に置いた協議がされている。学校では子どもたちの心や行動の変化を捉えて情報を共有し、家庭とも連携して相談、指導に当たっている。虐待問題については児童相談所や警察、様々

答 教育部長 小学6年生で子ども条約等について学習。中学では国際理解などの学習をし、他人を思いや

答 長所や肯定的な側面、うまくいっている部分に焦点を当て、「なりたい自分」や「望ましい未来の実現」を後押ししていく。

「子どもの権利条約」4つの原則
出典:公益財団法人 日本ユニセフ協会

問 公的な第三者の子どもの権利擁護機関の設置と、設置条例の制定に対する、市の見解は。
答 健康福祉部長 設置は子どもの権利擁護に関する専門知識を備えていることが必須となっている。現時点では人材の確保などハードルが高いため設置できる状況ではない。今後、国、県、他自治体の動向を注視して調査研究していく。
問 総括的に市長の見解は。
答 市長 教育委員会や児童福祉部局との連携を深め、法務局や児童相談所、民生児童委員や人権擁護委員などの支援を受けながら、いじめや虐待問題を最重要課題と位置づけ、子どもの権利が侵されることがないように最善を尽くしていく。